

天皇の退位と即位に関する声明「大嘗祭への国の関与は政教の分離原則に反します」(2019年2月21日付)に関して

日本聖公会のみなさまへ

主の聖名を賛美いたします。

去る2019年2月21日付け、日本聖公会「主教会」と「正義と平和委員会」連名で、天皇の退位と即位に関する声明「大嘗祭への国の関与は政教分離の原則に反します」を安倍晋三内閣総理大臣に送付いたしました。

その後、この声明について、いくつか質問をいただきましたので、簡単な**Q&A**を作成しました。

Q&A

Q1 「大嘗祭」とは何ですか？

A 天皇の即位後に行われる神道儀式です。毎年秋に、皇居で皇室の私的宗教行事として行われる稲の収穫感謝と、翌年の豊作を祈願する神道儀式を「新嘗祭」といいますが、新天皇の即位後に初めて行う「新嘗祭」を「大嘗祭」といい、一世一度限りの最大の皇室神道祭祀といわれています。今回は、11月14日～15日に行われます。

戦前は、皇室典範（旧）や登極令等によって最も重要な国家行事となっていましたが、1945年敗戦後の日本国憲法の施行とともに、その法的根拠は一切失われています。

Q2 「大嘗祭」の何が問題なのでしょうか？

A 「大嘗祭」は、天皇が皇祖霊を継承して神道の大祭司になるとともに、天皇が神そのものになる儀式といわれています。このような皇室の私的行事である「大嘗祭」を公的な行事と位置づけ、国が関与して国費を支出することについて、わたしたちは日本国憲法第20条の信教の自由の保障にも、政教分離の原則にも明らかに反するものだと考えます。

キリスト者としてわたしたちは、戦争中、国家神として現れた天皇を日本民族固有の特別な神聖「人」として受け入れ、崇敬し、「二つの神」として受け入れました。きちんと対決する姿勢をとることができなかった歴史を正しく認識することは大事なことです。

日本聖公会総会<1988年第40(定期)総会>において、祈祷書から「天皇のため」「皇室のため」の祈りを削除した背景を再認識することが重要です。

わたしたちは、イエスの福音によってすべてのものから解放され、自由にされた者です。だからいつも覚めた目をもって、今の天皇・天皇制が政治的、思想的、宗教的にどのような役割を果たそうとしているのかを的確にとらえ、二度と国家や天皇に呪縛されたり、利用されたりすることのないようにしなければなりません。

結び

このところの日本は、「平成」最後と「令和」の最初というキーワードで大騒ぎになっています。「昭和」から「平成」のときのように、「天皇の逝去」ということがない分、ある種のお祭り騒ぎのようで、「経済効果は?」とか「新しい皇室への期待」とか、マスメディアも連日大きく取り上げています。

今回の代替わりでは前回と比べ、キリスト教界での関心もそう高くはないように思われます。各教会で学習会などもあまり開催されていないのではないのでしょうか。

考え方や意見はさまざまですが、もっと自由かつ活発に話し合うことができればと思います。

この度の代替わりの一連の儀式や行事は、わたしたちキリスト者として、どう捉えるのか、どう向き合うのかを考えるよい機会なのではないのでしょうか。この**Q&A**をそのきっかけとしていただければ幸いです。

最後に、元号は、この世の支配者が誰であることを示すものです。キリスト者にとって、この世の支配者は神さまただ一人であり、「令和」天皇をこの世の支配者だと認めることはできません。ですから、わたしたちキリスト者は、基本的に元号は使用しないのです。

日本国憲法

第1条 天皇は、日本国の象徴であり、日本国民統合の象徴であつて、この地位は、主権の存する日本国民の総意に基く。

第20条 信教の自由は、何人に対してもこれを保障する。いかなる宗教団体も、国から特権を受け、又は政治上の権力を行使してはならない。

2 何人も、宗教上の行為、祝典、儀式又は行事に参加することを強制されない。

3 国及びその機関は、宗教教育その他いかなる宗教活動もしてはならない。

2019年5月

日本聖公会 正義と平和委員会